



康心会汐見台病院

産科だより

令和3年

◆新型コロナウイルス感染症流行下における産後ケアの助成について

産後ケアはご存知でしょうか？以前の産科だよりでもお話ししましたが、産後のお手伝いが得られない・退院後の育児に自信がない・退院して育児をやり始めたけど、疲れてしまっただけ・などの理由で利用していただけました。当院でも少しずつ利用者が増えてきました。他の病院で出産した方も利用していただけます。最近だと、赤ちゃんが出生直後から小児科に入院して離れ離れになったことで、育児の練習が十分にできないまま退院したという方が利用していただきました。

今回は、その産後ケアに横浜市が助成してくれるようになったことをご紹介します。助成の対象となるのは、新型コロナウイルス感染症の流行が原因で、里帰りを断念した・実家から手伝いに来てくれる予定だったができなくなったなど影響を受ける方・受けた方です。手伝いが得られなかった方へ助成を行い、大変な育児を一人で抱え込まないようにするサービスです。助成の受け方に対する詳細は横浜市のホームページに記載し

てありますが、対象期間中に上記理由で産後ケアや産後ケアを利用した方も申請することによって、自己負担した金額を助成していただけます。

これから利用する方は、原則、サービスの利用最終日から利用最終月の翌月10日までに、横浜市のホームページより電子申請で助成の申請を行います。一旦は、自己負担していただきませんが、助成金額が審査により決定したのち、振り込まれるシステムだそうです。

現在、新型コロナウイルス感染症は減少傾向となっておりますが、このまま状況が悪化しなければよいですね。これから本格的に寒い時期も来ますので、また不要不急の外出を控えなければならぬことにもなりかねません。今後、出産を控えている方、このような助成が横浜市にはありますので、利用する際にはぜひご活用ください。



当院の産後ケア入院の内容に関しては、外来にパンフレット（写真参照）が置いてあります。4月の産科だよりでも紹介させていただいています。興味がある方はぜひご覧いただき、この機会に是非ご利用ください。

参考：横浜市ホームページ「新型コロナウイルス感染症の流行下における育児等支援サービス費用の助成について」

◆今月の赤ちゃん

今回は外来からの赤ちゃんです。

妊娠10週頃の赤ちゃんで、卵黄嚢までくつきり写っています。卵黄嚢は卵の黄身と同じ部分で、お弁当箱のような役割を果たしています。ママがつわりで食べられなくても赤ちゃんに影響がないのは卵黄嚢のおかげです。



◆インフルエンザの予防接種

今年のインフルエンザの予防接種の予約が始まりましたが、すでに予約いっぱいであり、一時的に予約の受付を中止しております。薬が入荷次第また予約を再開しますが、まだ目処は経っておりません。再開する場合は産科だよりでもお伝えしますが、タイムリーに更新することが出来ませんので、お急ぎの方はお電話でのお問い合わせをお願いします。ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。